

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日		校 長 名		所 在 地	
南海福祉看護 専門学校		昭和43年3月13日		一井 久子		〒592-0005 大阪府高石市千代田6-12-53 (電話) 072-262-1094	
設 置 者 名		設立認可年月日		代 表 者 名		所 在 地	
社会福祉法人 南海福祉事業会		昭和43年3月9日		小藪 博		〒592-0005 大阪府高石市千代田6-12-53 (電話) 072-267-1131	
目 的		職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専門分野における実務に関する知識・技術及び技能について組織的な教育を行い、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与	
教育・社 会福祉	福祉 専門課程	児童福祉科	2年(昼)	71単位	平成7年文部省 告示第7号		
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技	
		27単位	38単位	0単位	6単位	1単位	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数	
160人		82人		8人		14人	
学期制度		■前期：4月1日～8月31日 ■後期：9月1日～3月31日		成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について ・納入すべき学費を完納 ・当該科目の出席時数が3分の2以上 ・評価は試験により行う。ただし、科目の性質によっては他の方法をもって試験に変える。 ・5段階評価(1は不可)		
長期休み		■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月13日～8月16日 ■冬 季：12月29日～1月6日 ■学 年 末：3月31日		卒業・進級条件	所定の科目を履修し、その単位を取得した者に対し、進級及び卒業を認定する。		
生徒指導		■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任を中心に、学生及び保護者と個別面談を行う。		課外活動	■課外活動の種類 保育士に関するボランティア活動の案内を提供している。 ■サークル活動 (有・無)		

就職等の状況	<b>■主な就職先、業界等</b> 保育所、児童養護施設 認定こども園 <b>■就職率 100%</b> <b>■卒業者に占める就職者の割合 97.1%</b> (令和1年度卒業者に関する令和2年5月時点の情報)	主な資格・検定 保育士 ビデオヘルパー
中途退学の現状	<b>■中途退学者 2名 ■中退率 2.6%</b> 平成 31年 4月 1日在学者 76名 (平成 31年 4月入学者を含む) 令和 2年 3月 31日在学者 74名 (令和 2年 3月卒業生を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 進路変更 <b>■中退防止のための取組</b> 担任による個人面談をすると共に、保護者への連携も密にしている。	
ホームページ	URL: <a href="http://www.nansen.ac.jp/">http://www.nansen.ac.jp/</a>	

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業・業界団体・学術機関の有識者等（以下「企業等」という）との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等からの意見を十分に活かし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

令和2年5月1日現在

名 前	所 属
油谷 佳典	社会福祉法人 永寿福祉会
杉原 久仁子	大阪人間科学大学 医療福祉学科
澤田 真弓	兵庫大学 生涯福祉学部 こども福祉学科
阿形 純次	社会福祉法人 南海福祉事業会 フィール南海
和田 正幸	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海かもめ認定こども園
一井 久子	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
久保山 宗男	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
北村 博文	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
野村 脩	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
山崎 三津恵	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
川内 裕美子	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校

(開催日時)

令和1年12月2日(月) 14:00～15:20

令和2年3月25日(水) 15:30～17:00(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

業界の方向性、人材の専門性の動向、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能等を十分に把握・分析した上で、本校専門課程の教育を施すにふさわしい教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育所実習Ⅰ	授業で学んだ理論を実習の中で子どもの姿を通して再確認し、一人ひとりの個性を理解できるように努める。保育者が子どもの育ちを支えるために、日々どのような役割を果たしているかを理解し、子どもと関わりながら一日を通して、様々な役割や仕事について学ぶ。	信太保育園、きらら保育園、 羽衣保育園、
保育所実習Ⅱ	学校で学んだ理論と保育所実習Ⅰで学んだことを基に、保育の方法や保育技術を学ぶ。また、保育所保育指針第6章にあるように、地域への役割を理解し、地域と保育所の関わりについても学ぶ。	信太保育園、きらら保育園、 羽衣保育園、
施設実習Ⅰ	入所(居住)型施設において観察実習・参加実習を行い、「利用者の生活」「利用者を取り巻く環境」「保育士の役割」を理解する。 また、施設における保育内容・養護内容・療育内容を体験的に学び、良き保育士としての自覚を持ち、学習目標を明確にする。	武田塾、あおぞら、 泉ヶ丘学院、和泉幼児院 和泉乳児院 等
施設実習Ⅱ	施設実習Ⅰをより深めた観察実習・参加実習・指導実習を以下の3点を目標に行う。 ①個々の利用者の実態を把握し集団による生活を全体的に理解する。 ②保育士の指導・援助の方法を具体的に体得する。 ③施設職員集団の役割を理解する。	武田塾、あおぞら、 泉ヶ丘学院、和泉幼児院 和泉乳児院 等

### 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

学校は校務に支障のない限り、教育職員に週に1日の研修日を与え、教育職員が各種の研修を通じて、自己の研究内容を高め、学校教育の向上を図る。

### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

令和2年5月7日現在

名 前	所 属
(外部委員)	
油谷 佳典	社会福祉法人 永寿福祉会
杉原 久仁子	大阪人間科学大学 医療福祉学科
澤田 真弓	兵庫大学 生涯福祉学部 こども福祉学科
阿形 純次	社会福祉法人 南海福祉事業会 フィオーレ南海
和田 正幸	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海かもめ認定こども園
(内部委員)	
一井 久子	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
久保山 宗男	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
北村 博文	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
野村 脩	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
山崎 三津恵	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
川内 裕美子	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校

(学校関係者評価結果の公表方法) ホームページ

URL:<http://www.nansen.ac.jp/>

### 5. 情報提供

(情報提供の方法) ホームページ

URL: <http://www.nansen.ac.jp/>

授業科目等の概要

(福祉専門課程 児童福祉科) 令和2年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人権教育	保育現場、幼児教育の現場における人権教育について、子どもの権利条約を中心に学ぶ。	1後	30	2	○		
○			情報技術	Word・Excel 機能の習得、工作上必要な文書や集計表などへの展開・使用方法を学ぶ。	1通	60	2		○	
○			基礎教養講座	基礎学力、基礎教養を身につけ、社会人としての土台づくりをする。	2通	60	2		○	
		○	英語	保育士としての英語表現及び異文化について学び、保育内容の知識とスキルを習得する。	1通	60	2		○	
○			体育講義	身体運動に関する知識と実践のための方法や技術を学習する。	1前	15	1	○		
○			体育実技	集団におけるコミュニケーション能力を高め、自身の行動力とスポーツ実践力を高める。	1通	45	1			○
○			保育原理	子どもを取り巻く現状を知り、乳幼児期の特性を理解した上で保育の意義や目的を理解し、保育の内容と方法を学ぶ。	1前	30	2	○		
○			教育原理	教育とは何か、その可能性、変遷などを学び、今後教育とはどうあるべきかを問い続ける姿勢を身につける。	1後	30	2	○		
○			子ども家庭福祉	子ども虐待・子どもの貧困など親子関係が不安定な状況の中において、保育士として子どもの支援について考える。	1後	30	2	○		
○			社会福祉	現代の社会福祉に至るまでに辿ってきた歴史的変遷を通して社会福祉の根幹をなす人権や生存権などの概念や児童相談所や社会福祉法人などの社会福祉に関わる団体や機関など、現代の社会福祉の仕組みや現状について理解する。	1前	30	2	○		
○			子ども家庭支援論	家庭とは何か、その形態・意義・機能を考察する。それらを取り巻く社会状況が大きく変化し、家族も変革を求められている現状を認識する。	1前	30	2	○		
○			社会的養護Ⅰ	家庭の機能に焦点を合わせて社会的養護のあり方を理解する。そして家庭ではない施設において、どのように家庭の機能を発揮させ子どもの最善の利益を実現できるかを学ぶ。	1後	30	2	○		

○			保育者論	保育者の倫理観に裏付けられた役割や制度的な位置づけ、歴史的背景などについて学び、子どもの保育と保護者支援を行う保育者の専門性について理解を深める。	2 前	30	2	○		
		○	保育原理Ⅱ	保育に関する基礎理論をより多面的に捉え、保育者としての専門性について理解を深める。	2 後	30	2	○		
○			保育の心理学	保育の現場で保育者として子どもの発達にかかわる心理学の基礎知識を習得し、子どもへの理解を深める。	1 前	30	2	○		
○			子ども家庭支援の心理学	子育て家庭の支援については、家族・家庭の意義・機能を理解した上で、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題に触れて学習する。	1 後	30	2	○		
○			子どもの理解と援助	子どもの発達課題に合わせ特別な配慮が必要か否かを見極める事が大事である。その子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法を学習する。	1 後	60	1		○	
○			子どもの保健	子どもの発育・発達を円滑に促す保健活動を学び、子どもが健やかに発育・発達できる支援の方法を習得する	1 前	30	2	○		
○			子どもの食と栄養	栄養や食に関する基礎知識を学び、子どもの健康と食生活のつながり、子どもの発育・発達期別栄養の特徴を理解する。	2 通	60	2		○	
○			カウンセリング	カウンセリングの理論や技法を学びながら、日常的な問題解決（ピアリング）のスキルを磨く。	2 後	30	1		○	
○			保育の計画と評価	乳幼児期の保育を実践する上で、必要不可欠となる計画についての基礎となる理論を学び、保育計画の作成を通して保育を見通す力を養う。	2 前	30	2	○		
○			保育内容総論	幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づく保育内容と保育計画の基本を学ぶ。	2 後	30	1		○	
○			健康	子どもを取り巻く現代社会の抱える問題や、健康づくりのために欠かすことができない子どもの生活習慣について学ぶ。	1 前	30	1		○	
○			人間関係	幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」を理解する。	1 後	30	1		○	
○			環境	子どもと環境とのかかわりについて理解を深め、健全な発達に適切な環境構成や環境を通して行う保育のあり方について学ぶ。	1 前	30	1		○	
○			言葉	言葉は人間が持つ特有のコミュニケーション手段。乳幼児期の子どもたちがどのように言葉を獲得し、社会とのつながりを築いていくかを学ぶ。	1 後	30	1		○	
○			表現Ⅰ	保育内容を理解し必要な知識や技術を自己発見・自己表現という一つの表現手法の流れに従い音楽表現領域、身体表現領域、言語表現領域から見出し、保育方法を習得していく。	1 通	60	2		○	

○			乳児保育Ⅰ	保育現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、一人ひとりに寄り添える保育者としての育成を学ぶ。	1前	30	2	○		
○			乳児保育Ⅱ	保育所保育指針における乳児保育のねらい及び内容について学ぶ。そして保育現場で取り扱う記録の役割や作成方法を学ぶ。	1後	30	1		○	
○			子どもの健康と安全	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について学び、子どもの病気、予防法などの基礎知識を身につける。	2前	30	1		○	
○			障害児保育	障がい児保育を支える理念と、障がいの理解と保育における発達の援助を学ぶ。	2通	60	2		○	
○			社会的養護Ⅱ	社会的養護がめざそうとしている方向性と家族、子どもへの支援のあり方を子どもの最善の利益という視点から理解する。	2後	30	1		○	
○			子育て支援	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の掲示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。	2後	30	1		○	
○			造形表現Ⅱ	個人や共同での制作活動を通して、立体表現における様々な材料や表現方法に触れ、指導実践に活かすことができる基礎的な知識や技能を習得する。	1後	30	1		○	
○			表現Ⅱ	表現Ⅰで身につけた表現力と模擬設定保育と日常生活態度を見直すことから始め、表現Ⅱではその中身と細かいところへの気づきにポイントを当てて学習する。	2通	60	2		○	
		○	造形表現Ⅲ	造形活動を通して、子どもたちならどう考えるか、そして教師、教材の役割についても考えていく力を養う。	2前	30	1		○	
		○	子どもと文学	具体的な作品を題材として、作者が子どもに託したメッセージなどを子どもの生活経験と照らし合わせながら分析する。	2前	30	2	○		
○			音楽表現Ⅰ	1名の講師が5～6名の学生を担当し、ピアノの基礎技術を習得するとともに、保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識を習得する。	1通	60	2		○	
○			造形表現Ⅰ	造形の基本的な理論と基礎技術を習得する。子どもの造形活動の具体的な支援方法を学ぶ。	1前	30	1		○	
○			身体表現	身体表現活動の実践を通して、子どもの発達と表現活動について理解を深める。	2後	30	1		○	
○			言語表現	子どもの豊かな育ちにとって大切な言語を用いての表現方法について学び、現場で実践するための技術を身につける。	1前	30	1		○	

○			音楽表現Ⅱ	音楽表現Ⅰで習得した演奏技術を更に深め、パートを増やすと共に卒業後の学習に向けて練習方法を身につける。 中級者・上級者に対しては、教則本等も使用して就職採用試験対策を行う。	2通	60	2		○	
○			レクリエーション実技	人の自立を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めたレクリエーション技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。	1通	60	2		○	
		○	レクリエーション概論	レクリエーションの必要性・理念と実践について学び、レクリエーションが生きる喜びにつながることを知る。	2前	30	2	○		
○			保育所実習Ⅰ	1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	1後	80	2			○
○			施設実習Ⅰ	1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	1後	80	2			○
○			保育実習指導Ⅰ	施設の役割・機能、子どもを取り巻く環境の理解、保育者の職務内容等について事前に学習する。また、実習終了後、自らを振り返り自己評価を行い、実習体験で学んだことから保育観、児童観を確認しながら実習の重要性を学んでいく。	1通	60	2		○	
		○	保育所実習Ⅱ	1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。	2前	80	2			○



	○		施設実習Ⅱ	<p>1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解を深める。</p> <p>2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</p> <p>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</p> <p>4. 保育士としての自己の課題を明確化する。</p>	2 前	80	2			○
○			保育実習指導Ⅱ	1年生での実習体験を基に、施設の機能理解、子ども理解、保育者の役割等を積極的に深く学ぶ。	2 前	30	1			○
○			保育実践演習	学んだ学習知と保育実習等で得られた実践知との統合を図り、使命感や責任感のある実践的指導力を身につける。	2 通	60	2			○
		○	卒業研究	研究テーマの決め方や研究の過程、発表に至るまでの研究方法を学ぶ。調査・研究したことをまとめ、最終授業で研究発表会を実施する。	2 後	30	1			○
合計				52 科目	84 単位					